

## 令和4年度第1回鹿児島県立図書館協議会の会議結果の概要

開催日時	令和4年6月3日（金） 午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	鹿児島県立図書館 2階 応接室 ※オンラインにて開催		
参加委員	7名（内健史，尾場瀬ちなみ，橋口知，下豊留佳奈，伊地知弘幸，河内優子，須部貴之）		
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	1人（取材1人）
問い合わせ先	鹿児島県立図書館総務課 （代表）099-224-9511		
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県立図書館の運営に関する点検及び評価結果について</li> <li>2 県立奄美図書館の運営に関する点検及び評価結果について</li> <li>3 その他</li> </ol>		
審議結果等の概要	<p>各委員から次のような意見・要望が出された。</p> <p><b>【運営に関する点検及び評価結果について】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 横断検索について接続市町村数を数値目標にしているが，検索クリック数を公表するとか，目標数値にするというような協議も必要ではないか。 → クリック数がどれだけあったかは，大事な視点であるため今後検討していきたい。</li> <li>2 レファレンス業務が，新型コロナウイルス感染拡大防止のためできなかったとのことだが，具体的にはどういうことか。 → まん延防止等重点措置期間は対面による調査相談を中止し，当該期間以外の通常開館時も30分までに制限しており，コロナ禍以前の状況に届かない。来館による調査相談は減っている。</li> <li>3 両館ともSNSについて，どのような広報活動をしているのか。 → QRコードを広報誌やHP，チラシ等に可能な限り掲載している。 → 奄美の地元新聞が催し物の案内を大きく掲載してくれるためSNSの周知もしており，市役所では転入者に当館のチラシを配布してもらうなどの協力をいただいている。職員も見てもらえるよう工夫をしている。</li> <li>4 県民1人当たり貸出冊数が3冊くらいとのことだが，県立図書館では大体1人どれくらい借りているのか。 → 当館では来館者が借りていく冊数は，1人4冊から5冊となっている。</li> <li>5 県立図書館では専門書が少ないと感じるし，書庫から出してもらった本がやや古い。蔵書数で一番多い分類を教えてください。 → 3類社会科学分野が多い。9類小説・文学も蔵書数が多い。</li> <li>6 すばる号はコロナ禍でどのような活動をしているのか。 → 貸出文庫を年間約2万冊を市町村に配本している。30年以上経過しているため，今年度更新する予定である。</li> <li>7 センテラスにできた新しい図書館には専門書も割とそろっている。県立図書館も専門書の充実を検討していただければありがたい。 大人の読書活動についても，コロナ禍で開催できないことが多いと思うが，朗読はもっとあった方が良くと思うので検討していただきたい。</li> <li>8 学校の読書活動や図書館運営の支援，子供読書活動の推進について重点的に取り組みたいと考えていることは何か。</li> </ol>		

→ 読書スキルアップ研修会を令和4年度からリニューアルし、第4次子供読書推進計画等も念頭に置きながら、読書の魅力を伝える活動推進事業として3カ年計画で行うこととしている。

昨年度初めて実施したほっとフェスについても見直しも含めて充実させたい。その他の事業も子供の読書活動推進という視点を持って進めていきたい。

学校図書館支援については、当館で開催している図書館講座以外にも、学校・地域図書館での研修会に職員が積極的に出向くなど引き続き取り組んでいきたい。また、小中学校に市町村図書館を經由して当館の本を貸し出しているが、要望があれば当館から直接持参する取扱いも行っており、県立学校へも団体貸出という制度を設け、一定期間、数十冊を貸し出すこともしており、制度の周知を図っていきたい。

9 奄美図書館は非常に立派な施設であるが、コロナウイルス感染の影響を考えないものとして、活用を図るときにどのようなニーズ、団体への利用促進を考えているのか。

→ 研修室の利用についてあまり知られていないため、来ていただいた方に口コミで広がるようにしたい。いろんな団体に利用してもらうことを考えている。窓も大きく安心して使えることをPRしながら拡大していこうと考えている。

10 奄美図書館の過去のレファレンスの掘り起こしを行い、入力件数が増えたとはどういうことか。

→ レファレンス記録にはHPに上げて良いものとそうでないものがあり、過去の溜まっていた記録を、職員がHPに上げるべきものを整理したため入力件数が増えたということである。

11 子供読書活動の推進がA評価で計画どおり実施でき、大きな成果がみられたという根拠を教えてください。

→ 人数制限をしながら開催したところ、参加者数こそ目標に届かなかったが、事後アンケートの評価は良かった。また、校内研修へ職員を派遣したり島内の公共図書館の方には来館してもらい読み聞かせの仕方を教えたり昨年度は充実した指導・助言ができたと考えてA評価とした。

12 県立図書館についてレファレンスはHPからの入力でも相談可となっている。来館者が減ったからレファレンスが伸びなかったとあったが、HPからの入力で相談できることを周知すればもっと増えるのではないか。レファレンスの利用状況を詳しく知りたい。

→ 昨年度のレファレンス調査相談は約2万件あり、面談による相談、電話による相談、メールを含めた文書による相談の概ね三つに分かれ、このうち面談・電話による件数が昨年度より減っている。この約2万件のうち、皆様の参考になると思われるものをHPにアップしている。

13 通常レファレンス件数というと、その年にどれだけオファーがあったということが数値化されるという認識だったが、両館ともHPへのアップ件数ということであるが、当該項目の書き方には工夫が必要かと考える。文書がどれだけ、来館がどれだけとわかると良い。また、システムを更新した中で、よりメールを使った相談の利便性が非常に良いと思われるが、現在HP上で推奨しているようにみえないため、指摘させていただいた。パスファインダーがわかりやすいので、レファレンス前にそこをみてもらうなどをHPで案内するとさらに良いのではないか。

14 奄美図書館では子供読書活動の推進がA評価で、研修会を実施できたとのことだが、どこからの依頼が多いのか。読書グループからも依頼があるか。

→ 2対1ぐらいで学校が多い。地区内の公共図書館からは電話相談があったり、来館してもらったりして研修を行っている。読み聞かせグループからの依頼はなく、私たちが教えてもらうことも多い。図書館等によっては読み聞かせをしていないところもあるので、30分でも読み聞かせをしていただけるようにお話をさせていただいている。

15 奄美図書館のInstagramを楽しみに拝見している。お話の会に親子で参加している様子を見てとてもほっとしたりうれしくなっており、良い学びの機会になっていると感じる。

学校の司書、公立図書館の司書は身近な相談役として頼もしい存在である。スペシャリストとして読み聞かせの支援をしてもらっていると実感している。今後も資質向上に取り組み、地域の実態や課題を把握され、活動を推進されたい。

16 Wi-Fi設置については、両館ともどのような利用を想定しているのか。電源を整えて欲しいとの要望はあるか。

→ 図書館で本を閲覧して、その中でわからない事柄であったり関連データを調べたい時などに活用されていると思う。いろんなパターンが考えられるが、拾い出しはしていない。

電源については、現時点では要望はない。

→ 奄美図書館では県立図書館と比べてOPACという検索機器が少ないため、自分のスマホでの検索ということは想定しているところ。

#### 【その他】

17 県立図書館の駐車場は無人化にすべきでは。こういった趣旨で有人の駐車場になっているのか。

→ 開館して40数年経過しているが、開館当時から有人による誘導を行っている。無人化について検討されたことがあるのかもしれないが、記録は残っていない。隣接する黎明館も当館と同じように管理しており、無人化することになれば黎明館とも調整が必要になると思われる。

18 2025年が椋鳩十先生の生誕120年になるため、2025年に向けて今から活動を進めたいという相談や行政と一緒に活動したい、行政はどのような取り組みをしていくのか等の声を聞くことが多い。図書館として生誕祭については動きがあれば、次回の図書館協議会の際に、情報を提供したい。

→ 椋鳩十先生は、県立図書館の館長も長く務められた方で、親子読書20分を推奨された方でもある。いろんな情報をいただきながら、図書館としても何ができるのかを模索してまいりたい。